

# たより



外国語活動研修講座(文部科学省教科調査官・直山木綿子先生師範授業)

## パワー全開の直山先生の授業に魅せられて

Here you are. と名札を渡す直山先生。Thank you. と受け取る子ども達。先生が、子ども達一人ひとりと向き合いながら Good! とさりげなく声をかけていくと、子ども達の瞳に輝きが増してきます。大切にされているという安心感があるのでしょうか、笑顔も生まれます。

先生の軽快なジェスチャーから、play soccer や play baseball などのスポーツだけでなく play the piano や play the guitar などの楽器演奏の動作表現を引き出し、言い方が少し違うことにも気づかせていきます。また、swim や cook などのような動作の表し方も引き出していきます。自然な流れの中で生みだされた子ども達の「気づき」の連続は、文法知識を教え込むことよりもはるかに理解を深めていきます。

ポインティングゲームが始まると、子ども達は柔らかい表情になります。両手を頭の上ののせて、Ready Go! 子ども達は、シーンとして先生の言葉を聞き取ろうと構えます。中には、耳だけでなく目も集中させている子もいます。身体を前に乗り出して真剣に取り組む子ども達の姿は、参観している私たちの心を動かします。喜びの声と合わせて、自然と拍手が起こります。勝負が目的ではなく、自分自身が聞き取ることができるかどうか为目的になっているからでしょうか、互いにたたえあう空気も生まれます。



最後に、「先生ができること、できないことを知ろう」という学習場面になりました。あやとりをしてみせながら、I can play ayatori. と直山先生が自分を語ります。But, I can't... と、できないことも語ります。テンポよくリズムカルに進んでいた授業が、しっとりと落ち着いた様子に変わっていきます。見事に場面を演出していく先生の力に、見ている私たちも引き込まれていきます。

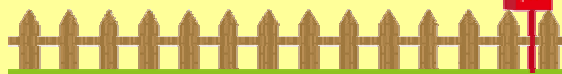
授業の締めくくりに、「できることも、できないこともあって・・・それが私。can'tが言えるって素敵なこと。can'tが言える学級にしてください。」と話します。先生の言葉をかみ締めながら、ポツリポツリとうなずく子ども達。外国語活動が人を育てる、学級を作る、組織を動かす・・・そんなことを感じた時間でした。

## ～ 講演から学んだこと～

直山先生は、三つの柱でご講演をされました。



師範授業を終えて



「言い訳をします。」と自分の授業について語ります。子ども達に気づいてほしいという思いが先行してしまい、子ども達が主体的に気づくことよりも、何が何でも気づかせる展開になってしまったことを悔やんでいると話します。「思考がなかった。本当は、こうしたらよかったですよね。」と、参加者を前に模擬授業。担任だったらもっと子ども達に寄り添えたのにと悔やむ姿には頭が下がります。瞬時に子ども達の心を捉えた授業であったにもかかわらず、授業のシミュレーションが曖昧だったと厳しく自分を振り返るのです。授業が勝負なのだからと語るその真摯な姿は、私たち教師の心を打つものでした。

校内研修の授業について

午前中に行われた校内での公開授業についてコメントされました。5年生担任の北岡美代子先生と柿澤泉先生が授業をされ、それぞれの学級の子供達に合わせて授業の流れをアレンジしていることを絶賛されました。また、先生と子ども達の信頼関係ができていること、先生の向上意欲、学年部のチームワークの良さに触れ、教育においてとても大切なことだと話されました。小学校の先生の英語力の向上は、外国語活動を進める上で必要不可欠だとも付け加えられました。



外国語活動の今後について（教科化・低学年からという報道）

5月半ばに新聞報道された外国語活動の教科化の内容を捉え、やや報道が先行しているのではと話されました。記事を読む時は、原点・原典にかえって読み解くことが大切だと続けます。外国語活動の教科化等については、ようやく中央教育審議会の議題にのせることが決定した段階であることも教えていただきました。

最後に、外国語活動の充実に向け、  
学校として取り組むこと  
小小連携を進め、情報交換をすること  
小中連携を進め、子どもの実態を伝え  
あうこと  
を話されました。



## アンケートより（一部抜粋）

- ・直山先生のエネルギッシュな授業・ご講演に私が引き込まれていきました。担任の私自身が英語アレルギーになっていたので、子どもと基本を押さえつつ、楽しむことが大切であることがわかりました。
- ・今回の師範授業を見させていただいて、中学校で自分が行っている英語の授業との相違点を沢山見つけることができ、相手が小学生だから中学生だからということに関係なく取り入れていかなければいけないと思う点も沢山あり、直山先生の文部科学省としての英語の授業への思い等を聞かせていただき、改めて自分の授業の在り方考えるきっかけになりました。
- ・毎回とても楽しい授業を見せていただきありがとうございました。先生のトークの面白さに心を奪われながらも、大切なポイントをきっちりおさえられている先生の指導力のすばらしさ、子どもの様子を見て指導案を変更されていく技術等、いろいろ勉強させていただきました。これからの外国語教育についてのお話も大変勉強になりました。
- ・授業を見せて頂き、引き込まれていく感じでした。直山先生の表情や言葉がけが絶妙でした。外国語活動で「楽しみながら・・・」だと、ただだらだらになったり収集がつきにくくなることもあり、バランスが難しいと感じます。今日の授業の流れや雰囲気をも自分も大切にしたいと思いました。担任でしかできない外国語活動の大切さがよくわかるお話でした。直山先生の叱咤激励という感じがよかったです。